

寒冷積雪地向き イタリアンライグラス 4倍体

# 中生品種 「ナガハヒカリ」

日本海側の多雪地及び北東北の低標高の畑・水田で安定した栽培ができる唯一の品種です。

イタリアンライグラスは、寒地型牧草の中では越冬性が劣るため、『ナガハヒカリ』は、越冬性の主要因である雪腐病に対する抵抗性を飛躍的に高めた品種で、連続積雪期間 120 日までの積雪地や寒冷地の低標高水田・畑での栽培を可能にしています。



表 多雪年における越冬性と一番草収量 2006年東北農業研究センター(盛岡市)

	融雪直後の 葉枯れ程度 (無微1-甚9)	出穂始日 (月/日)	春1番草		
			乾物収量 (kg/a)	乾物率 (%)	基底被度 (%)
ナガハヒカリ	3.0	5/20	66.0	12.6	93
ワセアオバ	6.2	5/18	51.3	15.4	89
タチワセ	6.8	5/17	39.3	15.5	79
はたあおば	7.0	5/18	40.4	14.2	81

連続積雪期間92日(12/9-3/11)。刈取日は、夏作物栽培を前提として5/24に設定(ワセアオバでも通常の刈り取りステージである出穂期に達していきなく、出穂が遅いナガハヒカリはさらに生育ステージが進んでいない)。



写真 ワセアオバ(左)とナガハヒカリ(右)  
の越冬後の再生(群馬県妙高高原園場 1992年)

## ○栽培適地

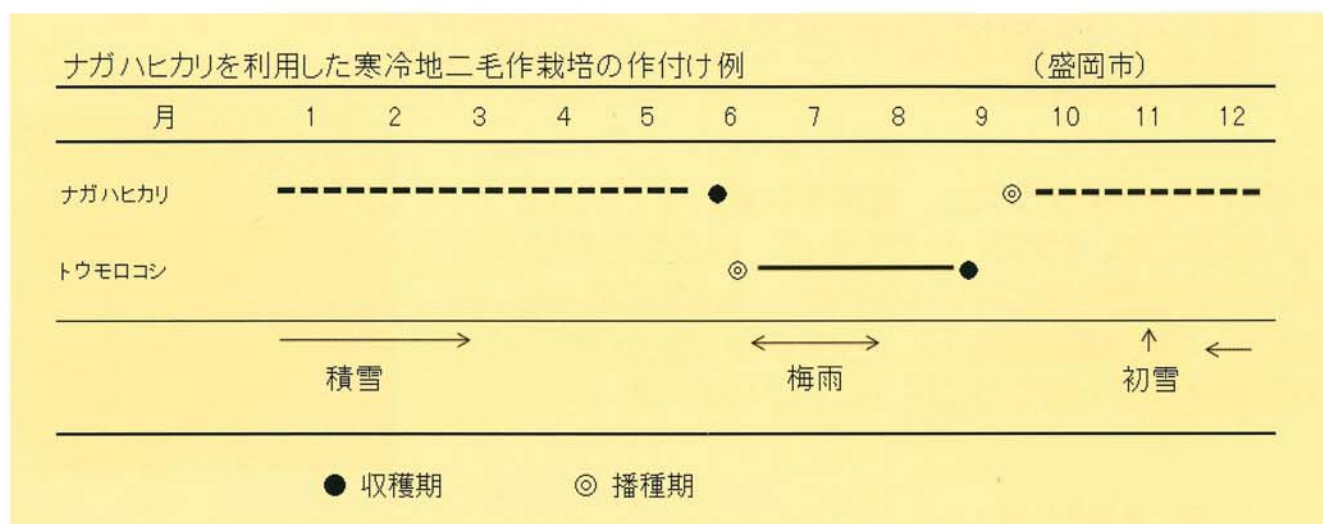
日本海側多雪地帯及び北東北の畑・水田地帯

## ○播種量(10aあたり)

- ・秋播き: 3.0~4.0/kg
- ・遅まきや春播きは5割増しとする。

## 「ナガハヒカリ」による寒冷積雪地での二毛作栽培

- 東北・北陸地域で夏期の気温が高い日本海側や内陸では、ナガハヒカリを利用した、二毛作栽培ができる地域があります。（輸入粗飼料の価格高騰対策を自給飼料で）
- この二毛作栽培では、暦日でナガハヒカリの収穫日を設定しておくことが重要です。ナガハヒカリは乾物率の上昇が遅く、それにつられて収穫期が遅れると倒伏するうえに、入梅前後の不安定な気候条件での収穫・調製作業を行うこととなります。



- 梅雨前と秋の短期間に収穫と播種等の作業を終わる必要があります。  
好条件の圃場を高度に活用するための技術です。この例では、ナガハヒカリを9月20日頃播種し、5月下旬に収穫します。平年では5月15日以降に出穂を始めるので、5月末でも出穂期以前の生育ステージです。夏作はトウモロコシですとRM100～110の品種になり、水田ですと飼料イネの早生品種の移植栽培も可能と思われます。
- 一番草収穫後すぐに耕起することがポイントです。  
東北・北陸地方は良質食用米の生産地ですので、イタリアンライグラスが斑点米カメムシの発生源になるとしてその栽培が規制されている地域があります。これらの地域でも問題となるカメムシ発生時期はナガハヒカリ一番草収穫後になるので、すぐに耕起することで発生を回避できますが、二番草まで収穫する場合は問題となる場合があります。

【育成機関】 問い合わせ先：

独立行政法人 東北農業研究センター

畜産飼料作物研究領域（牧草育種）

TEL：019-643-3563